

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373400486		
法人名	株式会社 千 樹 (営利法人)		
事業所名	グループホームせんじゅ (3階)		
所在地	愛知県犬山市中山町1丁目38番地		
自己評価作成日	平成22年1月28日	評価結果市町村受理日	平成22年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が常に入居者の立場に立ち、個々に合わせて皆で仲良く穏やかで楽しく暮らせるように対応している。 ・ご家族入居者共に気軽に相談出来る雰囲気作りをし、お互いが安心して暮らせるように努めている。 ・食事やおやつは、出来る限り手作りで入居者と一緒に楽しみながら作っている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合権研究所 株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年2月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>どんなことでも相談しやすい、明るい雰囲気を演出している。利用者、家族との親密な関係構築は勿論、職員間のコミュニケーションも充分に図られている。職員は日々利用者の気持ちを大切にしており、自己決定がしやすいような言葉をかけている。グループホームのために設計されたビル型の建物は、空調をはじめ災害対策も充実しており、利用者や家族にも安全と安心を提供している。また地域との交流も盛んに行われており、地域に根付いた事業所といえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	挨拶・笑顔・感謝を基本姿勢とし、スタッフ1人1人が長所を伸ばし、長所を活かせるようプラス思考で前向きに行動することとして実行しています。	新人研修時にも理念の周知徹底をはかり、実際に日常のケアでも実践している。笑顔での挨拶から利用者との和やかなコミュニケーションをとっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループの方々が踊り、三味線、プラダンス、お茶会などに来て下さり、交流を図っている。また、近隣の喫茶店などに出かけ、交流をしています。	近隣の喫茶店とは顔なじみになっており、利用者も大変楽しみにしている。喫茶店の店員が店内での利用者の移動の手伝いをしてくれるほど、親しい関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会長、民生委員の方々をお呼びしたりして交流を図っている。 入居者の作品や行事の写真をフロアに展示し、出来るだけ普段の様子がわかるように工夫しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を会議にて報告し、内容について意見交換会を実施しています。 また、その意見に基づきサービスの見直しを検討しています。	運営推進会議を家族会に振り替えることによって、市と事業所と利用者や家族が交流する場としている。お互いに情報を共有交換できる機会として活用している。	運営推進会議を年6回開催を目指してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、常に相談できる体制を整えています。状況の変化、実情など伝えながら、連携を取り協力をお願いしています。 また、事業者連絡会なども活用し、市の担当者と相談出来る機会を設けています。	市とはメール等を使い、随時連絡を取っている。市からは他のグループホームの状況や制度の変更等についての情報の提供を受け、それを家族に伝えるなど連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を十分に理解し、やむを得ない場合のみマニュアルに沿って、同意を得て実施できることを理解し、ケアに取り組んでいます。	身体拘束についてはミーティングの際に研修を行い、その理由と意義について職員全員が周知している。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、ミーティング等での取り上げ、スタッフが理解できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修が実施されたときには、その研修を受講できる体制を整えています。また、研修受講後は、ミーティング等で伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては重要事項説明書を丁寧に説明し、また契約書の内容も説明し、納得していただいた上で同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を定期的に受け入れ入居者の相談に乗っていただいております。ミーティング時に入居者の状況を話し合い適切な対応が出来るように努めています。	家族の来訪時に要望や意見を聞いている。また、市の相談員が、利用者や家族の話を書く機会を設け、その相談内容を事業所に報告してもらい、それをミーティングで検討し、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、会議などで要望・意見を聞き、業務改善に役立てています。	毎月、カンファレンスおよび経営者会議が開催され、事業者会議は2ヶ月に1度開催されている。職員は全員参加が義務付けられており、会議に先立って事前に意見が徴収され、会議で検討され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせ、役割・担当を決めて、やりがいを持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように、研修の情報は伝え、また、参加者については勤務など調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会に出席し、他事業者との情報交換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の趣味、嗜好等を把握し、またその方の生活暦を考慮した上で、介護プランを作成し、全スタッフが共通の認識で不安なく過ごして頂けるように対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし、不安や要望があれば、すぐに相談、話し合いなどができるような関係を作れるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、今何が必要かを探し出し、その時必要なものをご本人、ご家族と話し合い、一緒に考えて臨機応変に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者の立場に立ち、個々に合わせて、喜びや不安を共有できるように、傾聴に心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が一緒の目線で共感でき、お互いに協力し合い、安心した生活を送っていただくよう配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活暦を大切にし、また、お友達が気軽に遊びにおいでいただけるような環境作りに努めています。	希望があれば家族の協力を得て、行きつけの喫茶店や美容院への外出の支援を行っている。またボランティアが顔なじみであるなど、地域密着ならではの関係継続を可能にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム、体操の時間、音楽療法の時など皆で参加できる時を多く作り、お互いに係わり合いを持てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、イベントなどに参加して頂けるようにご案内しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で言葉や表情から本人の真意を察するように、ご家族の面会時には、ご家族から状況を把握するように努めています。	家族と利用者本人との連携を密にして、行きたい場所や食事の好き嫌い等工夫しつつ個別に対応している。時には家族に言いにくい事を本人から家族へ代弁することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族等から今までの生活歴について出来るだけ聞き取るようにし、また、今までの人生の思い出等を聞き取り、一人ひとりの生活歴を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との日常の会話の中から生活への思い等を聞き取り、一人ひとりの状況を把握するように努めています。 また、ご本人の出来ることに注目し、日常生活の支援をするように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向は、日頃の係わりの中で、意見や要望を伺いながら把握するようにし、ご本人の意向や能力を生かせるように配慮し、カンファレンスにて、スタッフの意見を持ち寄り、現状に即した介護計画を作成しています。	月一回のカンファレンスで職員全員が意見を出し話し合い利用者の現状を熟知し、本人、家族、医師と相談して介護計画を作成している。カンファレンスまで待てない時は随時見直しをしている。モニタリングは3ヶ月毎に行い評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事・水分量・身体状況・日々の様子などを記録し、就業前には記録の確認をして業務に従事するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの状況に合わせて臨機応変に対応し、ご家族の要望もその都度出来る限り対応するように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用し季節に合わせた外出などを行い、心豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっていますが、当グループホームは連携医療機関の主治医が月2回往診に来られますので、ご本人、ご家族の希望を優先し、決めて頂いております。	家族や本人の希望でかかりつけ医に通院している利用者もあり、定期的に行われている主治医の往診を待ちわびている利用者もいる。看護師が情報を把握しており、主治医とかかりつけ医との連携はできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、馴染みの看護師がご利用者の健康管理や医療相談に関わっています。また、24時間の連携を取っておりますので、夜中でも、緊急時は駆けつけていただけます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携を図り、リーダーなどが見舞いに行くなどし、情報交換を行い、早期の退院の機会を逃さないようにしています。 また、退院後も情報交換し、医療機関の支持を仰ぐなど連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、ご家族に説明し、同意を頂いた方につきましては、医師や看護師と相談した上でできるだけご家族の意向を汲み取るようにしています。	家族と早い段階で話し合い重度化した場合の指針を決め家族の希望を優先し選択してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、救急法の訓練を実施し、万が一の場合にも慌てず迅速に対応できるように適宜訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、防火訓練などを実施し、避難経路の確認、消火器の使い方などを訓練しています。また、ご家族、民生委員にも一緒に参加して頂き、協力体制を整えています。	スプリンクラー付の近代的な建物である。有事の場合 3F、4Fの利用者は非常口に集め消防を待つ等、消防署との連携が取れている。訓練は全館で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや日常のケアについても、一人ひとりのプライバシーを尊重し、誇りを傷つけない対応を心がけています。	カンファレンスで「傷つけない対応」について再度確認し、見直し、勉強会でおさらいをし、職員同士で注意しあっている。日常生活の中で利用者を尊敬しており、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるよう出来るだけ多くの選択肢を提案し、個人の気持ちを尊重するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のしたいことを優先して過ごして頂けるよう、職員が決めるのではなく、ご本人の気持ちを尊重し臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、ご本人を選んで頂き、おしゃれを楽しむ気持ちを無くさないように援助しています。 また、女性の方で、アクセサリーなど身に付けたい方は、ご自由につけていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、スタッフと一緒に取り、コミュニケーションをとりながら、楽しく食事ができるような雰囲気作りを心がけています。 また、手作りおやつなど、一緒に作ったりして楽しく過ごして頂いております。	昼食は業者からの配達で朝夕食はホームで作っている。女性利用者は率先して手伝い、もちつきは男性利用者が手伝う等楽しんでいる。希望のメニューは料理本から抜粋する事もあり、クリスマス会の時は近くのレストランのシェフが来てくれる事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を毎回記録し、残食が体調的なものか嗜好的なものかを把握し、スタッフが情報を共有し、状況に合わせた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促し、排泄パターンを把握し、適切な対応が出来るようにしています。	自立とそうでない利用者が半々で、職員は個々にノートに記し、排泄パターンを全員が熟知していてこえかけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、適度な運動を実施したりして、出来るだけ自然排便できるように工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間はあるものの、一人ひとりの体調、その日の気分や希望に合わせて臨機応変に対応しています。	入浴は希望があれば毎日対応できるし、午後と午前、女性と男性、順番は交互にしながら希望に合うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを大切に、日中の活動を重視しながら、夜間睡眠の妨げにならないように配慮しながら、休息を取っていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をコピーし、その内容をスタッフ全員が把握し、服薬時には本人に手渡しして、きちんと服薬を確認することを徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの長所を活かし、洗濯物のたたみ、野菜の皮むき、掃除の手伝い、食器の後片付け等能力が発揮できるようなことをして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるような初詣や花見などの外出、近くの喫茶店への外出などその日の体調や陽気を考慮して、気軽に戸外へ出かけられるように努めています。また、遠出は、事前に予定を立て、スタッフの勤務を調整し、出来るだけ希望を叶えるようにしています。	気温や天気にも注意しながら希望者全員でなじみの喫茶店に出かけたり、なじみの店に買い物にでかける。衣類の買い物等は家族の協力を得る事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する時は、ご自分でお財布からお金を出してもらい、支払をしていただくようにしています。 希望者には、小額を自己管理していただいております。 金銭トラブルには十分配慮しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状の発送、受け取りの支援は適宜行っております。 また、電話を掛けたい方への支援の随時行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂いや配膳の音などの中で家庭的な雰囲気を大切に、フローアの飾りつけは、季節感を演出できるように配慮し、安心して暮らせる空間作りを心がけています。	ちぎり絵を、利用者全員で手分けして作り、廊下や居間に飾ってあり楽しんでいる様子が伺える。ビルの中なので、外が見えにくいですが季節の行事や季節感を大切にしており鉢植えの花を育てたり、季節の壁飾りがあり穏やかで明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出入口や廊下には椅子を設置し、個人で寛げる空間を意識的に作るなどの工夫をして、独りになれる個人空間を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使用していた小物類などをお部屋に持ってきていただき、安心して過ごせる空間作りに配慮しています。	利用者の愛着のある家具を持ち込み、洋室をみごとに和室風にしてあったりして 個々の希望に合った居室になっている。捨てられなくて持ち物が多い場合もあるが出来るだけ希望に添える様配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置で安全に移動できるようになっています。 見間違えやすいもの、わかりづらいものはできるだけ無くし、不安のない生活ができるようにしています。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	① 地域のボランティアグループによる、フラダンスや三味線、お茶会などを開催し、地域と交流を深めている。	○
重点項目 ②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	① 運営推進会議は、1年間に5回開催されている。 ② 運営推進会議を家族会に振り替えることによって、市と事業所と利用者と家族が交流する場としている。お互いに情報を共有交換できる機会として活用している。	×
重点項目 ③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	① 運営推進会議以外に事業者連絡会を活用し、市の担当者と相談出来る機会を設けている。	○
重点項目 ④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	① ホーム便りを定期的に発行されている。	○
	② 家族会を定期的に開催している。	
	③ 相談員を活用して、利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止めてその後改善等に努めている。	
④		
重点項目 ⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ミーティングやカンファレンス、会議を頻繁に開催することにより、職員間の情報の共有を密にしている。また地域との付き合い、市町村との連携、運営に関する利用者、家族等意見の反映がなされているが、運営推進会議の開催が年に5回で軽減要件は満たしていない。

